

高度経済成長期を中心にした マツタケとシイタケの生産－消費 動向とその背景について

Production and Consumption Trends of Matsutake Mushrooms
and Shiitake Mushrooms during the High Economic Growth Period
and Their Background

小椋純一

OGURA Jun'ichi

はじめに

- ① 高度経済成長期頃におけるマツタケの生産－消費動向
- ② 高度経済成長期頃におけるシイタケの生産－消費動向
- ③ 20世紀初頭から高度経済成長期頃にかけての
マツタケとシイタケの生産－消費動向とその背景

むすび

【論文要旨】

マツタケは高度経済成長期の初期頃まで庶民の口にも入りやすいキノコであったが、高度経済成長期の間に生産量が急減し、多くの消費者には手が届きにくい高級食材となっていった。一方、それとは対照的に、シイタケはその間に生産量が急増し、価格が大幅に下がることにより庶民的な食品へと変わっていった。

そのような変化において、食品の価格は消費者にとってとくに重要だったと思われる。本稿では高度経済成長期の頃のことを中心に考えるが、その時期はインフレ率が高かったため、消費者が各年に感じた物価（消費者感覚価格）を、それぞれの年の実際の物価を日雇労働者賃金と比較することにより考えた。また、高度経済成長期の頃のことを考えるために、20世紀初期からの流れも考えてみた。また、マツタケとシイタケの生産－消費動向の背景についても、その20世紀初期からの流れも含め考えた。

その結果、高度経済成長期の頃、マツタケの消費者感覚価格は、その初期から後期にかけて、しだいに2倍ほどに上昇していったと考えられる。ただ、20世紀初期からの変化を見ると、高度経済成長期初期のマツタケの消費者感覚価格は、20世紀初期の約3倍もあり、決して安いと感じられるものではなかった。そして、それが高度経済成長期にさらに高騰することにより高級食材として定着してゆくことになった。

それに対し、シイタケは逆に高度経済成長期の期間を通して生産量は大きく増え、消費者感覚価格は半減し、消費者が求めやすい価格となった。長年の研究の末、シイタケは人工栽培が容易になり生産量が大幅に増えたのに対し、マツタケはそれが難しい状態が続いた。さらに、高度経済成長期のプロパシガス普及により、里山の利用がなくなり森林環境が大きく変化したことによって、マツタケはいよいよ発生しなくなった。一方、シイタケ生産急増の背景には、里山で使われなくなった広葉樹が入手しやすくなったこともあった。

【キーワード】 高度経済成長期、マツタケ、シイタケ、生産量、消費者感覚価格、背景